

酸素療法に関する知識の普及についての一考察 ～公開講座＜酸素療法の正しい知識＞の開催を通して～

Consideration of enlightenment concerning oxygen therapy

～Through holding the open lecture < knowledge with correct oxygen therapy >～

集中治療部 金子香代 高尾ゆきえ 下村陽子

<要旨>

本研究は、酸素療法に関する知識の現状を知り、継続的教育の必要性を明らかにすることを目的に行った。プリセプター研修参加者を対象とした酸素療法の知識に関するミニテストから現状が分かった。これにもとづき公開講座企画し開催した結果、ミニテストの正解率が上がった。新人看護師対象の酸素療法研修受講の有無とミニテストの正解率には明らかな関連がなかった。酸素療法研修だけで知識の向上、普及は図れないため、継続的にフォローアップ研修を行う必要がある。

<キーワード>

継続的教育、酸素療法、知識の普及

はじめに

当院看護部では、新人看護師を対象にした技術研修（基礎 I 研修）の中で酸素療法研修を行っている。酸素療法は、看護師が関わる機会の多い医療行為である。簡便で効果的な治療法であるが、正しい知識や技術に基づいて行われなければ、患者に不利益をもたらすばかりではなく、生命予後にも影響を及ぼす。このため、根拠を理解し、統一した正しい技術や知識を持った上で関わる必要がある。

酸素療法研修に関わる中で、新人看護師以外で酸素療法研修を受けたことがない看護師や、現在指導的立場にある看護師の酸素療法に関する知識の現状について疑問に感じるがあった。それを機に今年度プリセプター研修生を対象に現状を調査分析し、公開講座を開催することで今後のフォローアップ研修の必要性、ありかたについて検討した。

倫理的配慮

アンケート、ミニテスト記入に際し、そのデータを看護研究等に使用させてもらうこと、またその際、個人が特定されないことを研修生全員に説明し、同意を得た。

研究結果

1) 公開講座前の結果

プリセプター研修生 39 名中、基礎 I 研修を受けたことがある人は 67%、ない人は 33%だった。酸素療法の指導にあたって困ったことがある人は 68%だった。ミニテストの正解率は、加湿に関する知識 18~40%、酸素化の評価基準 31%、効果的な酸素投与方法 17%であった。

図 1

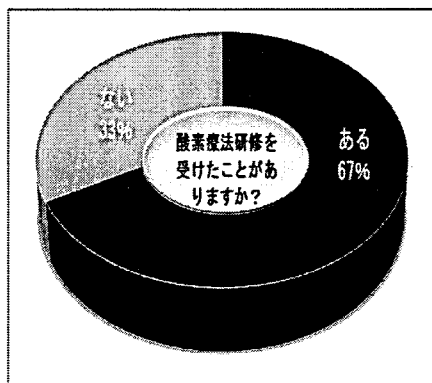


図 2

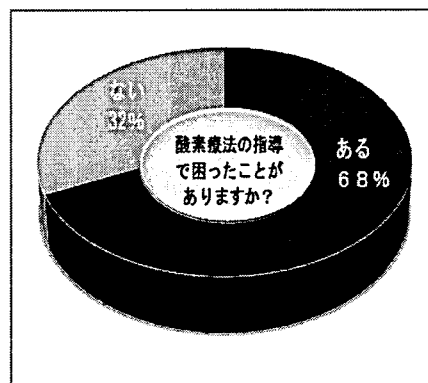
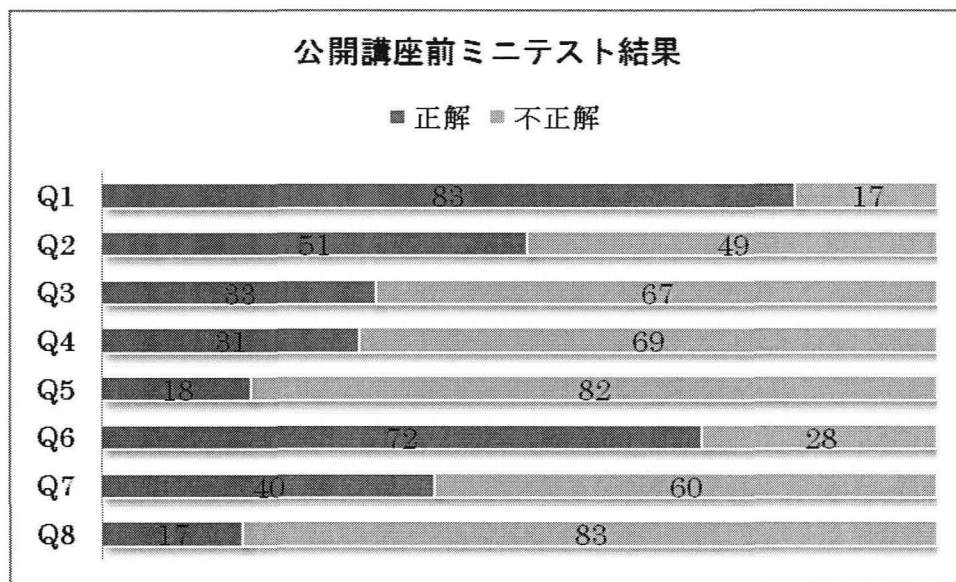


表 1

ミニテスト内容
Q1. 酸素吸入の種類を 4 つ書いてください
Q2. 酸素吸入の目的は何ですか？
Q3. SpO2 は何 mmHg ですか？
Q4. 酸素は何 L 以上で加湿が必要ですか？
Q5. インスピロンは何 L 以下で 加湿がかかりにくくなりますか？
Q6. 酸素のアウトレットは何色ですか？
Q7. インスピロンの加湿の確認方法を 3 つ書いてください
Q8. 各種酸素吸入器具はどの範囲で使用するのが効果的ですか？

図 3



2) 公開講座の開催

酸素化の評価基準に関する知識は酸素療法を行う上で重要な知識である。また、加湿に関する知識不足は、気道閉塞等の重大事故を招く恐れがある。これらのことから、新人看護師以外の看護師にも酸素療法に関する研修の機会を設け、正しい知識を再認識してもらうことの必要性を感じた。

プリセプターは、後輩看護師を指導する立場にある存在である。酸素療法の指導にあたって68%が困ったことがあると答えていること、また、プリセプターが、基礎知識を再学習、再認識することは指導する際に有益であると考え、対象を今年度プリセプター研修生とし公開講座を企画した。また、時期としても現在プリセプターを行っているこの時期の研修が最も有効と考えた。

研修内容は、ミニテストで正解率の低かった箇所を中心に以下のように組み立てた。

- i) 正しい吸入器具の選択
- ii) 酸素化の評価基準
- iii) 加湿について
- iv) 吸入酸素濃度の理解

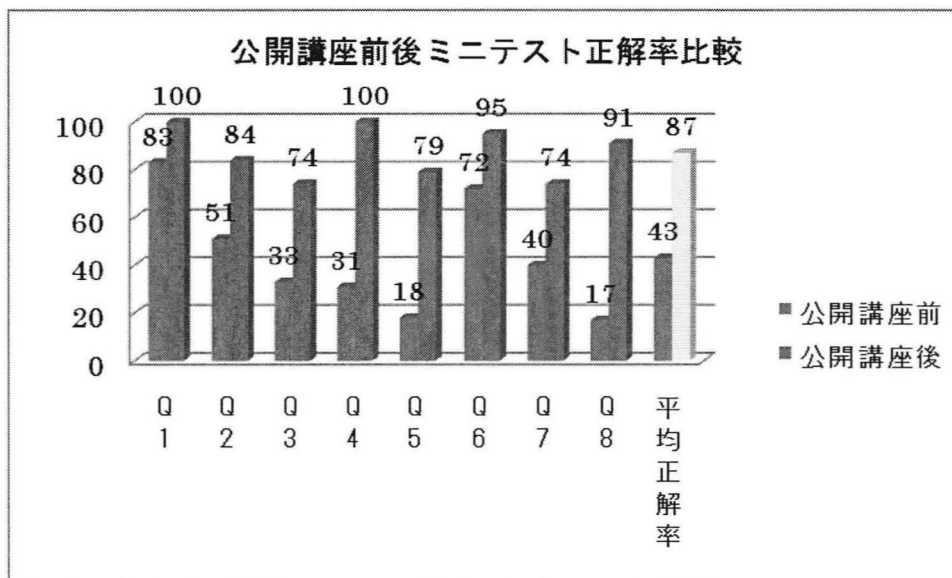
2009年12月、より質の高い安全な酸素療法をおこなうために、基本的知識を再確認すると共に新しい知識を得る機会とする、という目的のもと＜酸素療法の正しい知識＞という公開講座を開催した。参加者は29名、内プリセプター研修生は19名で、基礎I研修受講者は63%であ

った。

3) 公開講座終了後の結果

公開講座終了後、前回行ったものと同じミニテストを実施した。公開講座前と比較するとすべての項目で正解率が上がっていた。公開講座前、正解率の低かった正しい吸入器具の選択、酸素化の評価基準、加湿についても70%以上の正解率に上がった。平均正解率も2倍の80%に達した。

図 4



なおミニテストの正解率は、公開講座前後共に、基礎 I 研修受講有無間で大差は認められなかった。

図 5

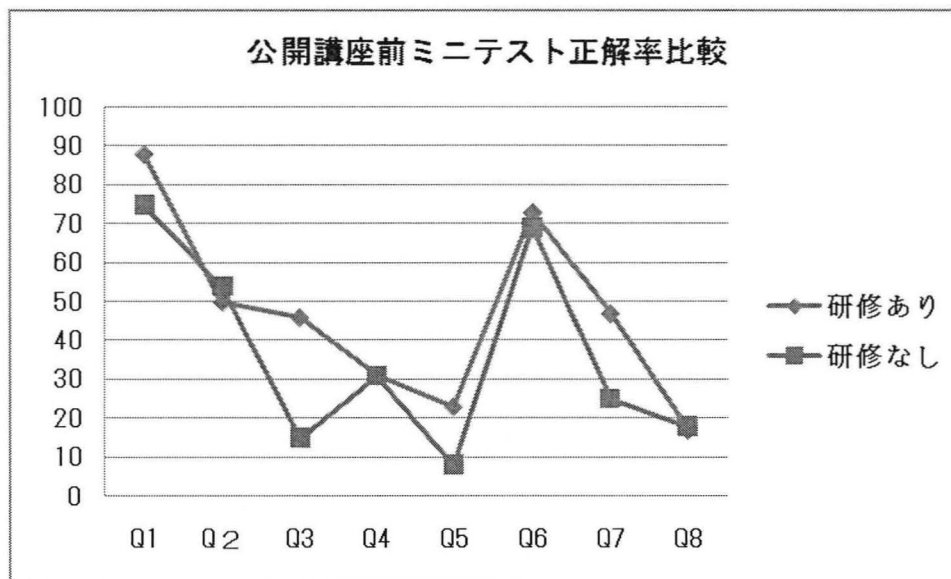
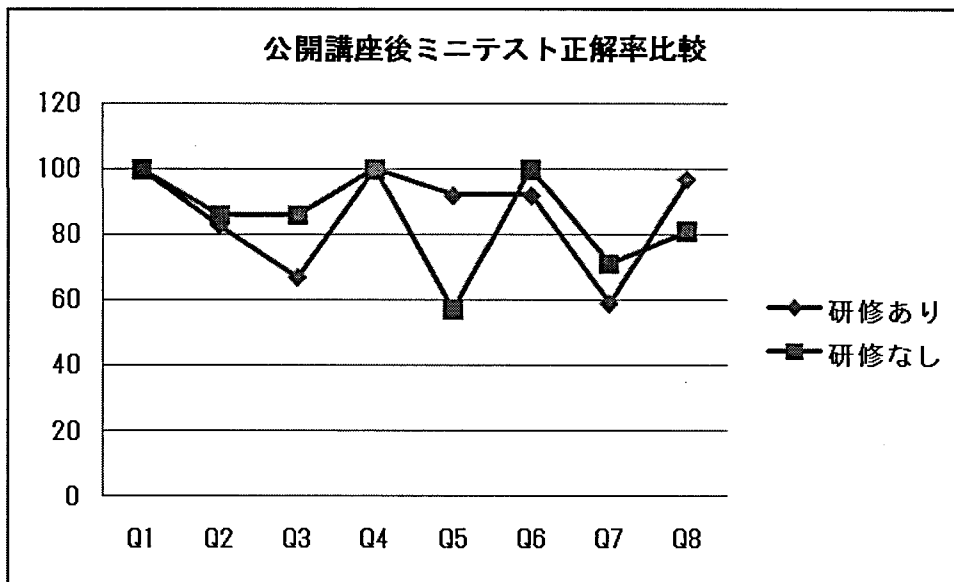


図 6



考察

ミニテストの結果から、酸素療法に関する統一した正しい知識が浸透していない現状が分かった。当院看護部が行ったアンケート調査で、臨床に出た新人看護師が病棟独自の基本とは異なったローカルルールに戸惑うことがある、と答えていることがある。これは、学生や新卒当時に看護学校や基礎 I 研修で学んだ知識と臨床における実践との間にずれが生じているためではないか、と考える。業務の円滑化や慣れにより、基本とは異なったローカルルールがいつのまにか作られ、正しい知識からずれた認識のもとケアが行われている現状があるのではないかと考える。また、当院には基礎 I 研修以降の酸素療法に関するフォローアップ研修がないため、個人学習や各病棟における勉強会等での学習に頼っていることから、知識の不足や偏りがあるのではないかと考える。

公開講座後のミニテストの正解率が上がったことから、今回の公開講座は酸素療法の基本的知識の再認識、普及につながるものだったと言える。基礎 I 研修受講の有無はミニテストの正解率に差がなかったことから、この研修だけでの知識の向上、普及は図れない。

これらのことから、今後も対象を広げながら知識と実践が結びつく様な教育を継続的に行い、統一した正しい知識を浸透させていくことが必要と考える。

おわりに

今後の課題として、基礎 I で酸素療法研修を受けても正しい知識の認識が低いという現状から、新人看護師以外の看護師を対象に、認識を高めていくようなフォローアップ研修を設けていくことが必要と考える。また、その学びを机上のものだけにせず、臨床でいかにリンクさせ、実践していけるものにするかも課題である。

公開講座後に行ったミニテストは、研修直後の結果だったため正解率が高かったとも言える。このため、今後実践でどの程度知識の活用ができているか、継続して検証していくことも必要と考える。

参考文献

- 1) 操華子 松本直子著：臨床看護研究の道しるべ、日本看護協会出版会、2006
- 2) 日本呼吸器学会、日本呼吸管理学会：酸素療法ガイドライン、メディカルビュー社、2006
- 3) 小泉十三と日本語倶楽部：頭がいい人の文章の書き方、株式会社夢の設計社、2009